

令和4年度 第1回 旭川市地域公共交通会議 記録

日 時：令和4年6月30日（木） 10時00分～11時10分

場 所：旭川市地場産業振興センター2階 会議室

出席者：

委員 25名

三宅氏、金澤氏、庄司氏、松尾氏（堀井氏代理）、矢野氏、福内氏、土田氏、柏葉氏、荒川氏、山内氏、中田氏、藤井氏、玉田氏、渡井氏、岡田氏、馬場氏、梅津氏、太田氏、加藤氏、山名氏、高田氏、秋山氏、高野氏、高畠氏、加茂氏

事務局 5名

地域振興部 田島次長 ほかに4名

随行者 2名



1 開会

2 委員紹介

4名の委員が交代したため、新たな委員の紹介を行った。（別紙）

また、旭川市地域振興部の人事異動により会長が熊谷部長から三宅部長となった。

会長：日頃より、公共交通へのお力添え感謝申し上げます。新型コロナウイルス感染症の終息はまだ見えず、影響は計り知れない中、利用規模の現状維持は困難になっている。国や道から支援をいただきながら、打開策を探していく。国は6月7日に、「骨太の方針」を閣議決定した。公共交通について持続性、実効性のある支援を行っていく方針とのこと。コロナの終息後も需要は元に戻る可能性は少なく、国や道と連携して、鉄道、バス、タクシーのモーダルコネクトの強化等、公共交通の先進的なネットワーク作りに、スピード感をもって取り組んでいきたい。

3 議事

（1）令和3年度 事業結果及び決算について（審議）

- ・事務局より、令和3年度事業結果及び予算について説明した後、馬場幹事より当交通会議の会計について適正に処理されている旨、報告。内容について委員の承認を得た。（資料1-1、資料1-2、資料1-3）

（2）令和4年度 事業計画及び予算について（審議）

- ・事務局より、令和4年度事業計画及び予算について説明し、内容について委員の承認を得た。（資料2-1、資料2-2）

(3) 地域内フィーダー系統旭川市生活交通確保維持改善計画について（審議）

- ・地域内フィーダー系統確保維持改善計画について事務局より説明を行った。（資料3）

質疑応答

委員（学識者）

- ・資料3ページに、運行回数等の数量的な目標値について記載があるが、路線が運行されることで、生活の質をどこまで保っているかということも重要な視点と思う。また交通と情報、通信コミュニケーションについても大きな流れがあり、数量的な判断のみではない観点も必要と思うがどうか。

事務局

- ・地域の代表等少数の住民としか対話できていない。様々な地域の声を聞いていきたい。

委員（学識者）

- ・例えば、高齢者が免許を返納することに、どこまで貢献しているか等、新たな視点を考えていく必要がある。

事務局

- ・住民の話を聞く場を設けているものの、実際の利用者は1人しか来ないということもあり、住民の関心が低いのが現状である。困りごとを解決する道具として、利用者に関心をもってもらう方法を考えていきたい。

事業者（旭川中央交通）

- ・地域の住民に対する説明会は年1回実施し、地域住民の声を聞いている。また貨客混載の取組みを行い、路線の維持確保をに努めている。昨日は、米飯川が氾濫したが、迂回経路を設定して運行を実施する等、スムーズな運行に努めている。利用増に関して何か良い案があれば教えていただきたい。

委員（運輸支局）

- ・事業計画に数量的な目標値が記載されていることについては、国の様式が定量的な目標を求めているためと思われる。住民の声を聴く必要があるというのは、その通りであり、また事務局からも行ってるとの説明をいただいたので引き続き取り組んでいただきたい。

質疑応答後、事業計画について委員の承認を得た。

(4) 生活交通改善事業計画（バリアフリー化設備等整備）について（審議）

- ・UD タクシーの購入補助に係る「生活交通改善事業計画」について、旭川地区ハイヤー協会の荒川専務より説明（資料4-1）。その後、市内のUD タクシーの導入状況について事務局より説明（資料4-2）。

質疑応答

委員（一般旅客自動車運送事業者）

- ・質疑応答ではなく補足となるが、令和4年度以降に導入されるUD タクシーはAC電源が整備されており、地域にとって災害時に有効なインフラとなっている。導入にあたって、さらなる支援をお願いしたい。

質疑応答後、事業計画について委員の承認を得た。

4 各種報告

(1) 旭川市より報告

旭川市より、バス無料 DAY についての報告（1 回目の 6 月 4 日は令和元年比で収入・利用者数とも約 1.3 倍、対前年比では収入約 2.8 倍、利用者数約 3 倍）。公共交通事業者等緊急支援金事業の実施（市内に本店のある交通事業者対象。予算額 5980 万円）。JR 利用促進事業として、夏休み小中学生を対象とした「旭川市内駅めぐり」を実施。

質疑応答

委員（一般旅客自動車運送事業者）

- ・バス無料 DAY は大変良い取り組みだと思う。事業にかかわる予算額はいくらか。

旭川市

- ・1 日あたり 1200 万円で 4 回実施するため 4800 万円の予算を計上。その他、広告費等として 50 万円強を計上している。

(2) 事業者（旭川電気軌道）より報告（資料別紙）

- ・旭川電気軌道では、消費税率改定以外では平成 26 年以来となる上限運賃の改定を行う申請をしている。物価や人件費の上昇、労働環境の改善、老朽化した設備の改修等を目的として実施するもので、平均では 13.5% の値上げ。初乗り 180 円が 220 円、200 円区間は 220 円の値上げとなる。値上げによる収益を活用して EV 車両の導入等を積極的に進めていく。

質疑応答

委員（学識者）

- ・札幌でも市電が 170 円から 200 円に値上げされ、議会では厳しい追及があったと聞いている。その際に問題となったのは、値上げに伴いどのくらい利用者が減少するかということだ。御社では、値上げによりどの程度減少するとみているのか。また、資料には通学定期についての記載がないが、通学定期は値上げしないということか。

事業者（旭川電気軌道）

- ・逸走率はコロナの影響がない前提では 1~2% とみているが、現実的にはコロナ前に比べて 15% の利用者減、85% 程度の利用者になると見込んでいる。現在はコロナ前の 70% 程度の利用者、直近ではコロナ前の 80% 程度に回復している。学生の定期については、片道料金を基準運賃としているので同様の率で値上げとなる。

5 その他自由発言

委員（学識者）

- ・LRT の導入に最初に取り組んだフランスのグルノーブルは、環境やバリアフリーを考慮した車両を導入したが、都市機能との連携には弱い面があった。続くストラスブー

ルや、ボルドーの LRT は、公共交通と都市機能との連携に取組み、良い都市を作り上げている。国内では、LRT を導入した富山や熊本が好例である。旭川は、都市もコンパクトにまとまり、交通不便地域も少ない。公共交通を生かしたネットワーク＋コンパクトを皆で考えていけば、可能性は大きい。買物公園ができたときは、全国から視察に来たが、その後視察者は減ってしまったと聞いている。ぜひ、再び全国から視察に訪れるような都市を目指していただきたい。

委員（学識者）

- ・札幌では 2 月に大雪に見舞われ、JR やバスが運休に追い込まれた。雪害に強いシステムを作り上げることも大事だが、限られた予算の中での費用対効果に考慮する必要がある。どんな雪に強いシステムも、予想を超えた雪害の場合には役には立たない。ある程度雪が降った場合には、例えば出勤しなくてもすむような方向付け等社会としての対応、交通についてまちの動かし方を議論していくことも重要である。

委員（学識者）

- ・札幌の北星学園で、9 月 7 日にバリアフリーと交通のセミナー、9 月 8 日には専門家を集めたセミナーを実施する。いずれも無料である。7 月 10 日にはチラシができる予定であり、市を通して配布を行いたい。

委員（運輸支局）

- ・地域公共交通の活性化及び再生に関する法律の第一条には目的が書いてあるが、まず「地域住民の自立した日常生活と社会生活の確保」があげられており「旅客運送サービスの確保」はその次となっている。公共交通の維持・確保は、まず地域住民のためにあり、皆さんが住んでいる地域をどうしていくのか、そのためにどのような運送サービスが必要なのか、まちづくりの観点とセットで考えていただきたい。

委員（運輸支局）

- ・安全な輸送に係るコストはしっかりとかけていただきたい。知床の遊覧船の事故と、交通モードは異なるが、安全は信用の根幹である。日常の点検作業や、運転手・指導者教育、アルコールチェック等の日々のチェックの積み重ねの上に安全が築かれている。無駄を省くコストカットは仕方ないが、必要な経費はしっかりと確保していただきたい。

4 閉会

会長

- ・本日は円滑な議事運営に御協力いただき感謝申し上げます。